



おきさちこさんのコラム

ナチュラルな暮らしを楽しむ



その 17 ナチュラルお手入れで、お気に入りの浴衣を来年も気持ちよく！

今年の夏は暑かったですね！花火大会や夏祭りなどで、浴衣を着た方もいるでしょう。浴衣をしまう時は、お手入れが必須。そのまましまうとカビや脇の汗ジミのもとになります。

浴衣はもともと湯上りの素肌に着ていたもので、家庭で洗えるものが大半です。クリーニングはドライ用の溶剤で洗うことが多いですが、汗は水溶性。水洗いで落ちます。洗濯機なら手洗いモードが最適ですが、水を溜める時間がかかるので、手早く洗うなら手洗いが最適です（柔らかい素材の大きなバケツが便利です）。

浴衣の素材は、綿、化繊、麻など。洗濯表示をご確認ください。金箔や特殊な染めが施されたもの、縮みが激しいもの、水洗い不可のものは家庭では洗えません。濃い色のものは、色落ちに要注意。濡らした白い布を目立たない場所に押し当て、色が激しく付くものは水洗いに適しません。多少の色落ちなら気にしない、という方は、他のものと分けて手早く洗います。

まず、襟がよれないよう、しつけ糸でざっくり縫っておきます。そして背縫い部分で折り合わせて、丈を三つ折りにする「袖畳み」にたたみます。この状態に入るサイズの洗濯ネット（パンツ用などの平たいものがぴったり）に入れます。



バケツ1杯20Lくらいの水に、液体スノールを30mLほど入れ、ネットに入れた浴衣を浸け込み、数回押し洗いしま

す。すすぎは2回。2回目のすすぎの時にクエン酸を小さじ半分ほど入れると、色止めになる上、アルカリ分が中和されて生地がしなやかになります（洗濯機の手洗いモードも同じようにネットに入れた状態から洗濯機に入れます）。

脇や襟にシミがあるときは、1度目のすすぎの後、酸素系漂白剤を溶かしたお湯にその部分を漬け込みますが、色落ちしやすい素材や色、縮みやすい素材は避けてください。

脱水はネットに入れたまま1分以内に済ませ、和装ハンガーにかけて陰干しします。干すときにパンパンと生地を叩きながら、しわを伸ばしておくアイロン要らず。年に数回しか使わない和装ハンガーは邪魔、という方は、クリーニングハンガーに突っ張り棒を結びつけて即席で作れます。



子どもが小さい間は、浴衣を着る余裕がなかったし、20年前に母が仕立ててくれた浴衣は、今の私には可愛すぎて気後れしていましたが、大人っぽい浴衣を友人が見せてくれました。こういう生地を凧と着こなせる女性になりたいものです。



興 幸子(おきさちこ)さん

大学で天然物化学を専攻し、製薬メーカー、調剤薬局に薬剤師として勤務。安全で気持ちの良い生活法を提案する「ナチュラル家事」の講師として各地で講演中。薬剤師、公益社団法人日本アロマ環境協会認定アロマセラピー検定1級、ハウスキーピング協会認定整理収納アドバイザー